

台湾海洋大学海洋文化研究所 学術交流協定締結

締結日：2017年6月28日（水）

台湾海洋大学海洋文化研究所との学術交流協定締結

小熊 誠

海洋文化に関する学術ネットワークの構築を目的として、日本常民文化研究所・国際常民文化機構の代表として森武磨、佐野賢治、中島三千男、小熊誠が2013年6月に台湾海洋大学海洋文化研究所を訪問した。その際、相互の研究所の歴史と研究状況について情報を交換し、学術協定を結ぶことで意見が一致した。それぞれの大学での手続きを踏まえ、学術締結の準備を進めた。その間、2015年11月の第3回東アジア島嶼海洋文化フォーラム（木浦大学校開催）、2016年10月の第4回東アジア島嶼海洋文化フォーラム（台湾海洋大学開催）で、台湾海洋大学海洋文化研究所所長（当時）の黄麗生教授と学術交流に関する情報交換を継続して行い、今回の学術協定書調印式に至った。

2017年6月28日に、台湾海洋大学から、黄麗生人文社会科学学院院长、下鳳奎研究所所长、顔智英海洋文創設計産業学系主任、莊育鯉海洋文創設計産業学系助理教授が本研究所を訪問した。それに対して、三浦副学長と孫学長補佐が常民研に来てくださり、表敬とともに台湾海洋大学一行と学術交流について面談をした。



写真1 常民研にて表敬訪問

その後、両研究所の学術交流を目的として、29号館1階でシンポジウムを開催した。内容は、以下の通り。

- ①黄麗生教授「明代朝議中の海南島」
- ②下鳳奎教授「戦前基隆と八重山の間の非合法活動—《台湾日日新報》を中心とする探求—」
- ③顔智英教授「従陸戦到海戦：明代抗女真戦争詩敘事初探（上）」
- ④荘育鯉助理教授「詩詞視覚的図象表現—以帰有光的海戦詩為例—」
- ⑤田上繁教授「『海賊』の系譜をひく家々の結びつき—瀬戸内海二神島の二神家・村上家を事例にして—」
- ⑥昆政明「伝統的木造船の造船技術—防水技術における日本船と中国船の比較—」
- ⑦小熊誠「石垣島における台湾系移民の豚祭り」

シンポジウム終了後、3号館の展示室と修復室、収蔵庫を見学した。収蔵品の多さと修復室での博物館学芸員課程の下張り文書をはがす実習などに関心を示していた。

台湾海洋大学海洋文化研究所の代表は、本学での学術協定書締結式を機会に神奈川大学および日本常民文化研究所をじっくりと見学できた。神奈川大学は、新キャンパス創生と合わせて海と港のプロジェクトと考えており、台湾海洋大学は基隆にあり、台湾と日本の交流であった基隆港の共同研究も可能になるという意見も出た。将来に向けて実質的な学術交流の検討を今後展開していくことを、両研究所の代表者で確認できたとともに、両研究所の研究室が今後熱心に交流していくことに期待がもてる。



写真2 台湾海洋大学4名・本校3名によるシンポジウム



写真3 3号館展示室・修復室・収蔵庫を見学



写真4 調印式の様子